

～第13回 千葉県水道局中期経営計画2011事業等評価会議 議事要旨～

議事(1)「千葉県水道局中期経営計画2011」に基づき実施した26年度施策等の評価について(全体に関する事項、基本目標1・2)

全体に関する事項について、質疑応答を行った後、基本目標1及び2の内部評価について、委員から質疑・意見を受け、内部評価の妥当性について評価をいただいた。

<全体に関する事項>

- ・評価調書における記載の仕方について

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) 達成指標及び成果指標として水道事業ガイドラインで設定されている指標を用いている場合、注釈の指標番号は必要ですか。

(回答) これらの指標について、計算方法や意味合い等を調べる際に検索しやすいように、指標番号を掲載しています。

(質問) 当初予算額及び決算(見込)額の再掲分とはどのような意味ですか。

(回答) 一つの事業が複数の取組に当てはまる場合、予算及び決算は主たる取組に計上しているほか、従たる取組でも再掲という形で記載しております。

[意見・質疑応答]

(座長) 再掲という記載方法について、説明を追加した方が良いかもしれません。

(水道局) 全く知らない方でもわかるように、記載の仕方を検討します。

- ・評価における取組及び事業のウエイト付けについて

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) 複数の事業により達成指標が構成される場合に、実績評価を各事業の達成率の単純平均で良いかは疑問なしとはいえません。たとえば1-(1)④の場合、外部要因による未達成率の事業と超過達成率の事業を平均して、内部評価を「b:概ね達成している」と評価していますが、事情や性格の異なる事業の進捗率を単純平均する意味が問われると思います。

また、「達成」評価は「取組」単位で行われ、「成果」評価は複数の「取組」の総合評価として行われています。したがって、各取組の「達成」評価が全て同一の場合は問題ありませんが、一致しない場合においては何を基準に総合評価するのかが問われます。つまり、各取組の相互関係と評価の軽重(ウエイト)や優先順位について、合理的に説明する必要があります。現状においても、説明文の中で触れることは可能かもしれませんが、可視的な客観性という点では検討する余地があると思います。

(回答) 取組の達成評価における各事業の進捗状況及び施策の成果評価における各取組の評価結果のウエイトや反映のさせ方の基準等を設定できるのであればそれが望ましいのですが、その設定は困難であると考えられます。ですので、評価に至った経緯や理由を評価調書の中で丁寧に説明するとともに、必要で

あれば、目標の追加や見直しを検討致します。

また、取組の評価が、事情の異なる各事業の進捗率の単純平均でいいのかという点につきましては、計画策定時にウエイト等が設定されていないので、取組に位置づけられている各事業については、同一であると考えています。

なお、次期中期経営計画では、現在、指標や目標値等について検討を行っていますので、上記の点に考慮して、検討を進めて行きます。

[意見・質疑応答]

(座長) 外部要因の影響により達成できなかった事業と自己完結型の事業を同列に並べるのは違和感があります。

(水道局) 過去についても同じ考え方でやっており、評価自体にも大きな影響を与えますので、現中期経営計画の中では継続させていただいて、次期計画でウエイトや順位等について検討したいと思います。

・達成評価と成果評価の関係性について

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) 「成果」評価は、各取組の達成状況に基づく上位のアウトカム評価であることを考慮すると、「達成」評価>「成果」評価との不等式が本来と考えられますが、「4環境にやさしい水道」では取組の達成状況の評価がそれぞれb、a、b、施策の成果の評価がaとなっており、「達成」評価<「成果」評価となっています。このように「達成」評価が「成果」評価よりも低くなることには明らかに違和感が生じますので、合理的な説明が必要です。

(回答) ご指摘の点につきましては、取組の達成指標と施策の成果指標がうまく連動していない、成果指標が施策全体を網羅できていない、達成目標もしくは成果目標の設定が適当でない、過去に積み上げられた取組の実績により当該年度の成果がもたらされている等の理由が考えられます。

基本目標4施策(7)については、成果指標①「購入電力量の削減率」が取組①及び②、成果指標②「浄水場発生土の再資源化率」が取組③の達成指標ア)「浄水場発生土の再資源化の推進状況」の達成状況を反映した形となっており、成果指標が施策全体を網羅できていないことが原因と考えられます。

なお、次期中期経営計画では、現在、指標や目標値等について検討を行っていますので、上記の点に考慮して、検討を進めて行きます。

[意見・質疑応答]

(座長) 「達成」評価が「成果」評価よりも低くなっていることについて、偶発的なもので説明によって解決するものなのか、そもそも指標の設定等の問題なのでしょうか。

(水道局) 施策全体を網羅するような成果指標の設定が困難であり、取組に位置づけられていない要因が成果に影響を及ぼすこともあると考えられます。「達成」評価が「成果」評価よりも低くなるという、論理的矛盾を解消するために、取組の達成状況の評価の総体を施策の成果の評価とすることについても、次

期計画策定の中で検討したいと思います。

(座 長) 取組に位置づけられていない要素が成果に影響を及ぼすとなると、何を評価しているのか分らなくなる恐れがあるため、説明を付す等の検討が必要だと思います。

(委 員) 施策(4)に限れば、取組③の達成指標イ)「建設発生土の再資源化の推進状況」の達成状況が成果に反映されていないので、構造的な問題であると思います。次期計画に向けて、このような点を見直す必要があると思います。

(委 員) このような場合は評価に至った経緯を「評価結果の説明・分析」の中で丁寧に説明することが必要だと思います。

(座 長) 次期計画に向けて改善していただくとともに、評価に至った経緯についての説明を加えて下さい。

・今後のすすめ方の評価について

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質 問) 「今後の進め方」において、「a：継続」と「b：一部見直して継続」の関係について、どちらに判別するかが判りにくい事例がありました。たとえば「安定給水の確保」では、①②④が a 評価、③が b 評価とされましたが、④も「組織体制の見直し」が掲げられています。また 2-(4)では、取組②を廃止したにも拘らず全体としては a 評価としています。a 評価と b 評価の峻別基準を明確にする必要があるように思います。

(回 答) 取組の内部評価で c 評価以下の評価となった場合は、「今後の進め方」で当該取組の進め方を「一部見直して継続」とし、今後の事業を進めて行く上での改善点などを記載することとしています。また、取組で一つでも「一部見直して継続」があった場合は、全体の評価も b 評価としています。

今回、施策(1)では、取組③が c 評価であったため、取組③の進め方を一部見直して継続とし、27 年度の事業を進めて行く上での改善点を記載しています。一方、取組④については、「組織体制の見直し」を記載していますが、管路更新事業を強化するための工夫・改善をするものです。

また、施策(4)取組②については、体験型研修施設の整備を当面見送るとの方針決定により、25 年度に取組を終了しました。26 年度は取組①の中で体験型研修を他事業体の施設を用いて実施しており、技術研修としては変わりなく、実施できていることから、内部評価を「a：継続」としました。

[意見・質疑応答]

(座 長) 体験型研修施設の整備について、整備を見送ったが、他事業体の施設を活用することで研修を実施していることから、「a：継続」と評価されたのだと思います。しかし、自前の施設が必要だという判断から検討を進めた結果、整備を見送ったということであれば、計画の見直しに当たるとは思いません。よろしいでしょうか。

(水道局) 25 年度に実施した施策等の評価において、取組が終了したことから、「今後の進め方」の内部評価を当初「b：一部見直して継続」としていましたが、

昨年度の第9回評価会議の中で、整備を見送ることも想定された検討結果の一つであるとのことをご意見をいただき、「a：継続」に変更いたしました。

(委員) 取組が「整備の検討」なので、「整備する」もしくは「見送る」どちらの結果が出たとしても、検討は予定通りに実施したという判断だと思います。

(座長) わかりました。

<基本目標1 安全で良質なおいしい水をいつでも供給できる水道>

主要施策(1) 安定給水の確保

1-① 主要施策(1) 主な取組①「水源の安定化」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) ハッ場ダムの完成により、千葉県水道局の安定した自己水源量は何パーセント向上するのでしょうか。

(回答) ハッ場ダムの完成により、当局の安定した自己水源量は、約15ポイント向上します。

内訳として、平成26年度末現在で安定した自己水源を日量830,200立方メートル確保していますが、ハッ場ダムの完成により、日量120,400立方メートル確保できることから、当局の安定した自己水源量は、合計で日量950,600立方メートルとなり、約15ポイント向上いたします。

(質問) 「事業費ベース」という表現では読者が分るか疑問があります。「事業費ベース」以外の表現は無いでしょうか。

(回答) 委員ご指摘のとおり、「事業費ベース」では、県民が分かりにくい表現だと思いますので、「事業費ベース」を削除し、「進捗率」のみの記載とさせていただきます。なお、進捗率は、ハッ場ダム建設事業費に対する、建設当初から平成26年度までの事業費となっています。

[意見・質疑応答]

(委員) 安定した自己水源量が約15ポイント向上することで、濁水の影響等はどれくらい減るのでしょうか。

(水道局) 詳細な数字はありませんが、安定した自己水源量が約120,000立方メートル増えることで確実に安定性は高まります。

(委員) ハッ場ダムはいつ完成するのでしょうか。

(水道局) 平成31年度の完成を予定していますので、31年度中もしくは32年度から安定水源として利用できると考えています。

(委員) 水源量が増加しても現在の浄水能力で対応できるのでしょうか。

(水道局) 完成するまでの暫定水利権が安定水利権に変更となるなど、水源量自体が増えるわけではありませんので現在の浄水能力で対応可能です。

(委員) 増加する水源量はどちらに割り当てられているものですか。

(水道局) 矢切取水場に割り当てる予定です。

(委員) 事業費と実際の工事の進捗率は違うと思うのですが、どうですか。

(水道局) ここでいう事業費ベースは、建設当初から26年度までの工事費用の積み重

ねですので、実際の工事の進捗率とほぼ一致します。

1－② 主要施策（1）主な取組②「水道施設の長期的な整備方針の策定」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

（質 問）「整備方針の策定については」の「策定」は除いた方が良いのではないのでしょうか。

（回 答）委員ご指摘のとおり修正いたします。

（質 問）目次案とはどのようなものでしょうか。

（回 答）整備方針に記載する内容を項目別に整理したもので、策定イメージを説明するためのものです。

（質 問）整備方針の対象期間とはどのような意味でしょうか。

（回 答）整備方針を適用する期間のことで、通常でいう計画期間と同義として記載しています。

（質 問）「下記の基本条件の整理や必要な更新事業量などの検討を進めました。」と記載しているので、具体的に挙げているそれぞれの項目については「整理」や「検討」等の文言は必要ないのではないのでしょうか。

（回 答）委員ご指摘のとおり修正いたします。

1－③ 主要施策（1）主な取組③「浄・給水場の更新」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

（質 問）松戸給水場ポンプ用電気設備更新工事等について、等を取って他の3工事名を記載してはどうでしょうか。

（回 答）「当年度の取組計画の概要」に主な工事として、松戸給水場ポンプ用電気設備更新工事は記載されていますが、残りは記載されていないので、松戸給水場ポンプ用電気設備更新工事を代表的な工事として記載しました。

（質 問）事業進捗率が予定9事業のうち4事業の累計44事業完了に留まったことにより、27年度の最終目標58事業完了への影響はありませんか。

（回 答）26年度に未完成となった5事業は、27年度に全て完成となる見込みで、これの影響はありません。27年度に予定している事業のうち1事業について遅れが見込まれています。

（質 問）耐震化施設が予定9施設のうち4施設の累計400施設完了に留まったことにより、27年度の目標403施設完了への影響はありませんか。

（回 答）26年度末での完了が400施設に留まったことにより、平成27年度の目標を403施設の完了に変更しました。

27年度の3施設の完了予定のうち、すでに2施設は完了しており、残りの1施設も予定どおり年度末に完了の見込みです。

[意見・質疑応答]

(委員) 事業進捗率については 26 年度の遅れが 27 年度に影響していないということでしょうか。また、耐震化については進捗に併せて、27 年度の目標を変更したということでしょうか。

(水道局) そのとおりです。

1-④ 主要施策 (1) 主な取組④「管路の更新整備」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) 「更新延長」は「更新延長実績」の方が良いのではないのでしょうか。

(回答) ご指摘のとおり、「更新延長実績」に修正いたします。また、同様に、「整備延長」を「整備延長実績」に修正いたします。

(質問) 「84.1%の実績となりました。」の「実績」という文言は必要ないのではないのでしょうか。

(回答) ご指摘のとおり修正いたします。

(質問) 「耐震化率は管路の更新及び整備の延長」を「耐震化率は当局が実施した管路の更新及び整備の延長」としてはいかがでしょうか。

(回答) ご指摘のとおり、「当局が実施した」の文言を追加いたします。

(質問) 「全体布設延長」は「総布設延長」の方がいいのではないのでしょうか。

(回答) ご指摘のとおり、「総布設延長」に修正いたします。

(質問) アの「他団体の工事に伴う水道管の移設等の依頼が少なかったこと」及びイの「未普及地区のお客様からの給水要望や他団体などからの申請が少なかったこと」は外部要因であり、これを除いて目標を達成している旨の記述を行って、現在の b 評価を a 評価としても良いのではないのでしょうか。

(回答) ご指摘のとおり、イ)は 100%の実績となる為、a 評価に変わりますが、ア)の実績は外部要因の少ない铸铁管更新工事においても 91.6%と変わらず b 評価となります。すなわち、外部要因を除くとア)が b 評価、イ)が a 評価、ウ)が変わらず a 評価となりますが、総合的には 100%以上を達成していない為、変わらず b 評価となります。

(質問) 達成指標ア)は他団体の工事、達成指標イ)はお客さまからの要望等の外部要因の影響があるため、次期計画ではそもそも達成目標の対象から外したら如何でしょうか。

(回答) 次期中期経営計画については、現在、指標や目標値等について検討を行っていますので、外部要因の影響についても考慮して、検討を進めていきます。

[意見・質疑応答]

(座 長) 水道管の更新は水道事業の重要な施策ですので、外部要因をどのように評価に反映させるか、慎重にご検討ください。

(委 員) 評価の質を考えなければならないと思います。他団体等の依頼に基づく工事については、要請があった場合はきちんと対応することが重要であると思います。しかし、工事量を指標とすると、外部要因の影響を受けるため、評価が難しいと思いますので、指標の性格で仕訳をして評価のやり方を変えることが必要だと思います。

主要施策（２）安全で良質なおいしい水の供給

1－⑤ 主要施策（２）主な取組②「おいしい水づくりの推進」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質 問) 誉田給水場での残留塩素低減効果はどの程度でしょうか。他点との比較値など教えてください。

(回 答) 誉田給水場の給水区域は、高低差などに応じて、高区、中区、低区の３つのブロックに分けています。このうち、高区系と低区系の２つの区域で平成27年6月から、塩素管理設定値を高区系では0.05mg/L下げて0.75mg/L、低区系では0.1mg/L下げて0.7mg/Lとしています。今回、設定値を変更した２つの区域において、高区系では0.03mg/L、低区系では0.09mg/Lの低減となっており、概ね設定値の変更に応じた効果が現れています。

なお、設定値を変更していない中区系では、大きな変化はみられていません。

(質 問) 水道出前講座の対象やおおよその受講人数など教えてください。

(回 答) 水道出前講座は、主に小学校の社会学習と連携できるよう開催していますが、一般の方向けの講座開催も受け付けています。

平成26年度は、小学校向け3,629人（33回）、一般向け300人（9回）の参加があり、合計の受講人数は3,929人（計42回）でした。

[意見・質疑応答]

(委 員) 一般向けの水道出前講座は自治会や会社から依頼があって開催するのですか。

(水道局) 過去には依頼は数件あったのですが、現在は公民館等にアナウンスしています。

(座 長) 小学4年生を対象としている理由は何ですか。

(水道局) 小学校の学習指導要領の中で、小学4年生で水道や電気、ガス等、身近なものを調べることが記載されていることに基づきます。

1－⑥ 主要施策（２）主な取組③「水質管理の強化」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質 問) 当初予算額147百万円に対して決算額は79百万円となっていますが、その

理由が記載文では分からないため教えてください。

(回答) 本予算額及び決算額は、当局で実施している水質検査に用いる検査機器の更新のためのものです。

購入に際しては一般競争入札を行った結果、当初予算額と決算額に差が出たものです。

なお、予定していた検査機器は全て更新しました。

[意見・質疑応答]

(座長) 工事単価は上がっていますが、検査機器の価格も下がっているのでしょうか。

(水道局) 業者によって差があり、企業の方針等が影響していると考えられます。

1-⑦ 主要施策(2)「施策の成果」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) [評価結果の説明・分析]の最後に2回の広聴結果の数値が出ておりますが、過去の2年と並べるとやや不自然に高いようにも感じますが、何か特殊な要因はありませんでしょうか。

(回答) 飲み水としての満足度の上昇は、安全でおいしい水づくりの取組みのPRを長年にわたり継続してきた効果が表れてきたものと考えています。

また、平成23年度の原因事故に伴う放射性物質や平成24年度ホルムアルデヒド事故等の影響により、一時的に低下していたものが、その後、順調に回復したことも、近年の上昇要因の一つではないかと考えています。

[意見・質疑応答]

(委員) 過去2年間が異常値だったということでしょうか。

(水道局) おいしい水づくり計画は平成18年度から行っていますが、毎年同じアンケートを実施しています。計画開始当初の約30%から年を追うごとに上昇しておりましたが、原因事故やホルムアルデヒド事故で一時的に横ばいやわずかな減少に転じましたが、その後回復したと考えています。

(座長) ご回答いただいた推定以外にも、具体的な変化をトレースするような検討はなさっていますか。

(水道局) そこまで細かい検討は行っていません。アンケート自体については、同じ方ではなく、毎年新たに募集するモニターを対象に行っていますので、一般的なお客様の意識を反映したものだと考えています。

【基本目標1に係る委員の評価】

- 「達成状況、成果」についての内部評価の妥当性について、5人の委員全員から、A(妥当である)との評価をいただいた。
- 「今後の進め方」についての内部評価の妥当性について、5人の委員全員から、A(妥当である)との評価をいただいた。

《評価に当たっての意見》

(委員) 内部評価については適切に評価されていると思います。

(委員) 疑問点については、説明いただき、理解しました。

(座長) 全体に係る事項も含めて、今後次期計画に向けて検討いただくようお願いいたします。

<基本目標2 行き届いたサービスと高い技術力でお客様に奉仕する水道>

主要施策(3) お客様サービスの推進

2-① 主要施策(3) 主な取組② 「「お客様の声」の事業運営への活用」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) [評価結果の説明・分析]の最後に『「平成26年度インターネットモニターアンケートQ&A」というページを作成し』とあります。水道局HPを見てみましたが、このページにたどり着くのは大変難しいです。もう少し工夫があると良いと思います。

(回答) 現在「水道局トップページ」→「お客様へ」→「お客様アンケートの集計結果」→各アンケート結果→「Q&A」という階層なので、「お客様アンケートの集計結果」の分かりやすい位置にもQ&Aへのリンクを設けます。

2-② 主要施策(3) 主な取組④ 「新たな料金収納形態の検討」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) クレジットカードの取組みの記載部分について、「実施作業部会が昨年度、既に導入済の近隣自治体に対して調査をした結果、徴収コストが増加する一方で収納率が向上しないことが分かったので、その旨を実施作業部会で報告したところ、関係4市は導入には消極的な意向であることを、貴局は確認した」という意味でよろしいでしょうか。

その上で、貴局での見解は特に出していないということでしょうか。あるいはここに記載するような正式な結論は出ていないということでしょうか。

(回答) 平成25年度に実施した導入済の近隣自治体調査では、「口座振替払い利用者の1割強がクレジットカード納付に移行した一方で、納付書払いの割合は、ほとんど変わらず、収納率の向上は期待できないこと」、「口座振替払いと比較して割高となることが見込まれるクレジットカード納付に係る収納手数料について、利用者負担の実施又は検討を行っている自治体は無いこと」でした。平成26年度に、この結果を関係4市に示したところ、コスト増の懸念や同一市における市営水道との調整も必要であることから、導入には消極的であり、平成30年1月からの徴収一元化実施時に導入する意向はないことを確認しました。

また、当局の見解については、近隣自治体の導入結果や関係4市の意向を踏まえ、平成27年度内に、クレジットカード納付導入の方向性について一定の結論を出すべく、検討中です。

[意見・質疑応答]

(委員) 「当年度取組計画の概要」に「前年度の調査結果を踏まえ、検討していきます。」と記載されていますが、検討中ということでしょうか。

(水道局) 27年度中に一定の結論を出します。

2-③ 主要施策(3)「施策の成果」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) 14名が「 $100-88=12\%$ 」に相当するのであれば標本数は117名ということでしょうか。他の指標にもアンケート結果を利用する項目がありますが、サンプル数に応じて誤差がありますので、誤差を踏まえた実績評価が必要かと思われます本項目の場合、4ポイント未達に関して誤差範囲に入ってしまうのでしょうか。

(回答) 標本数は、113です。

接客経験のあるモニターの標本数が少ないため、1名の回答が、数値に大きな影響を及ぼしています。

この点については、次期中期経営計画の指標を設定する際に検討します。

(質問) [成果実績]欄の%値には、元のデータ(何分の何)かを合わせて提示するほうがよいのではないのでしょうか。分母が小さいときは、その結果の解釈に注意すべきと思います。

お客様満足度の数値に、過年度の対応経験に基づく回答があったことを問題としていますが、当該年度に対応経験がある回答のみに限定して解析すべきと思います。これは過年度の評価でもそうすべきであったことで、可能であれば、遡って計算し直すべきと思います。

(質問) 「14名のうち9名が25年度以前の対応経験に基づく回答であったことが、満足度に影響しています。」とありますが、26年度の評価をするのであるから、9名が25年度以前の対応経験に基づくものであればこれを除いて、a評価でも良いのではないのでしょうか。

(質問) 「施策の成果」の「説明・分析」②の意味が良く分かりません。「9名が25年度以前の対応経験に基づく回答」とありますが、モニター調査自体に瑕疵があったということでしょうか。

(回答) 113名中99名と記載します。ちなみに、当該年度に対応した人に限定すると、平成26年度は、104名中99名の95%、平成25年度は、107名中103名の96%になります。

なお、対応時期については、いつの時期の接客経験に基づく回答なのか、現在のモニターアンケートの設問項目にないため、県水お客様センターのお客様対応履歴より分析しました。また、アンケートの個別回答データは、過去2年分の記録のみ保管していますので、確認できるのは25年度以降のものであり、それ以前については再計算が困難となっています。

今後、接客経験の時期を設問の中に加えることで、当該年度につきましても、数値が特定できるよう検討します。

〔意見・質疑応答〕

(委員) 今後の改善に生かすためにも、いつの応対に基づく評価なのかは記載すべきだと思います。しかし、応対した年をアンケートで調査し、それに基づいて解析する際に、アンケートの信頼性が問題になると思います。悪い印象は強く残るので、最近のような印象でも、実際は何年も前の応対であったとい場合もあるので、応対した年度については別のデータを用いる必要があるかもしれません。いつの応対に基づいた満足度なのかを評価できるような体制が必要だと思います。

(委員) 過年度分の応対が入っているには違和感がありますし、その理由についても調書には書かれていないので、説明を聞かないと分らないと思います。

(座長) 時系列で分析できないと、どの時点で満足したかが分らないので、次期計画では検討していただきたいと思います。

(水道局) 他の成果実績「県水だより内容満足度」、「ホームページ満足度」についても、同様に元のデータ(何分の何)を記載したいと思います。

(座長) そのように修正してください。

2-④ 主要施策(3)「今後の進め方」

〔委員からの事前質問及び局からの回答〕

(質問) 「事務の改善」ではなく、「事業の改善」の方がいいのではないのでしょうか。

(回答) 業務改善プロジェクトチーム会議における「お客様の声」を活かした事務の改善につきましては、お客様の声の内容を基に、日々職員が行っている事務処理の現状をあらためて把握し、お客様目線に沿った事務処理方法への改善を検討することとしておりますので、「事務の改善」としております。

主要施策(4)次世代への技術の継承

2-⑤ 主要施策(4)主な取組①「実践的な技術研修の実施」

〔委員からの事前質問及び局からの回答〕

(質問) 平成26年度事業等進行管理総括表では、計画概要に「なお、取組み②の体験型研修施設の整備の検討を踏まえ、他団体の施設での、より多様な体験型研修の実施について検討を進めます。」との記載がありましたが、それについての検討結果はどうなったのでしょうか。

(回答) 平成26年度は、中堅技術職員を対象とした新メニューを検討し、平成27年度の研修計画に反映し実施しております。

具体的に申しますと、他の団体が保有する施設を利用した研修は、これまでに初任職員を対象とした体験型研修を行っておりますが、初任者向けには、いままでどおりの管路維持管理分野における初心者向け体験型研修を行い、中堅職員向けには、内容を強化した管路分野の維持管理技術と大口径管路の配管実習などを、また、浄水分野の技術職員向けには、浄水場等の設備運転・維持管理の技術を、実習形式で行う研修を計画しました。

こういった研修を採用するに至った経緯ですが、日本水道協会が実施している大口径管路の研修や浄水分野の技術研修について、受け入れ枠が少ないことから、当局の希望者が受講できないことがありました。このため、この研修を当局独自のメニューとして検討し、27年度から実施することとしました。

2-⑥ 主要施策（4）「今後の進め方」

[委員からの事前質問及び局からの回答]

(質問) 「水道技術革新」ではなく、「水道技術進歩」の方がいいのではないのでしょうか。

(回答) 「日進月歩の水道技術革新への対応や」の表現は、「水道技術の進歩に応じた」などに修正をいたします。

【基本目標2に係る委員の評価】

○「達成状況、成果」についての内部評価の妥当性について、3人の委員から、A（妥当である）、2人の委員から、B（概ね妥当である）との評価をいただいた。

○「今後の進め方」についての内部評価の妥当性について、5人の委員全員から、A（妥当である）との評価をいただいた。

(委員) 施策(3)の「施策の成果」については、過去の対応も入っていることから、評価が難しいと思いますので、今後改善して下さい。

(委員) 施策(3)の「施策の成果」については、過去の対応も入っており、それを除けば、「a：成果が出ている」と評価できるかもしれませんが。現状の評価でいいのか疑問があるため、B（概ね妥当である）と評価します。

(委員) 施策(3)の「施策の成果」については、計画当初から問題となっているやり方で評価していることも見直す必要があると思います。

(座長) 満足度調査において、満足度が何によって構成されおり、総合的な満足度に影響を与える要因を把握し、それに対応した事務改善を行うことが必要だと思います。